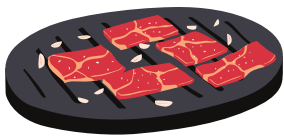


つなぐ

アジブリ通信
2024年 5月
第5号

熊本レポート



堂々たる阿蘇山の麓に、養豚業を学んでいる2人の技能実習生がいます。ミャンマーから来た、ミンさんとアウンさん。2人の歳は10歳以上離れていますが、協力しあって暮らしています。彼らが育てる豚は、有限会社コーシンさんが開発した、自社ブランドの豚。もしかしたら、私たちのお腹にも入っているかも。



有限会社コーシンさんは、年間生産量1万5000から16,000。330から350ほど出荷しています。常時10,000頭を飼育しています。



アウンさんと、ミンさんは、カンボジアから来た技能実習生と3人暮らし。同じ空間で国を越えて一緒に暮らしています。1番好きな日はいつ？それはもちろん給料日との回答。ミャンマーには大切な家族がいて、情勢不安の中家族のために働くことが1番の生きがいです。豚さん達も、ふたりを見るとよってきて、口を開けます。もうご飯をくれる人はわかっているんですね。



香心ポークについて
味と安全性にこだわった最高品質のブランド豚です。抗生物質を使わないNon-GMO無薬飼料と阿蘇の天然ミネラル水で育てた臭みの無い豚肉です。豚肉の厳格な安全基準「SPF」に準拠し、一般的な豚肉の4倍以上の栄養価のある肉質は成人病予防など健康効果も期待できる豚肉です。



香心ポークは抗生物質や動物性飼料を一切使わず、天然のミネラル、鉄分、マグネシウムを豊富に含んだ「阿蘇の黄土（リモナイト）」をミックスした無薬飼料のみを与えています。



アジアンのスタッフも、オープンしたばかりの、お店で買ってウィンナーを試食してみました。シンプルに茹でるだけでも、さっと焼いてもパリパリでジューシー。香りもとても良いです。実習生の汗もちょっと入ってるのかな(笑) イベントのための豚の1頭売りや、表示した肉の好きな分量を注文することができます。法人様たちも、ぜひご利用ください。



ソフィアのレポート!

ランタンフェスティバルに行ったよ~!



2月に開催された長崎ランタンフェスティバルに、アダムとアンガと一緒にきました。
食べ歩きなんかもしちゃって、すごく楽しかったですっ!



アダム

アンガ



小学生とおしゃべりも
しました!
かわいかったな~



AULIA (アウリア) というお店にも行ったよ!
いつもオンラインで頼んでいます。
インドネシアの調味料とか、食品が手に入るので、
とても便利です。
味は良くないけど、自分でインドネシア料理を作っ
て食べています(笑)



お店を運営してるちょっとシャイな感じの
ランダさんにも話を聞きました。
6年前からお店をしていて
最近になってご飯を食べに来る人も
増えてきたそうです!!!

FOOD!!!



最新情報

2022年から2023年まで行われた有識者会議の結果、技能実習制度廃止が決定されました。それに代わる制度として、3年間の育成期間で特定技能1号水準の人材に育成することを目的とした「育成就労制度」が創設される予定です。
「技能実習」と「育成就労」とはどのように違うのでしょうか？
主な違いについては下記をご参照ください！

	技能実習	育成就労
目的	発展途上国に技術を伝える国際貢献	人材確保と人材育成
在留期間	最長5年	最長3年
受け入れ分野	90職種（現時点）	特定技能とそぞえる（現在12分野）
転籍	基本的に認められない	【以下の要件を満たせば可能】 ●同じ職場に1年超勤務 ●日本語能力試験N5合格 など



今期の入国データ
(2月~4月)

特定技能 9人
技能実習 7人



インド旅日記

山形県議会でインド視察に行かれるとの連絡を頂き1月28日から2月1日までご一緒させていただきましたので皆様にご報告したいと思います。

さて当組合では、設立当初グローバル人材に於いては中国、韓国、ベトナムの時代はもうすぐ終わるという見通しからベトナムの次にミャンマーと締結。しかしミャンマーは人口が5000万人余りで数年で不足するため、次にインドネシア人口2.7億人で当面对応し、インド15億人をグローバル人材の最終国と位置づけ2019年に当組合職員をインドNew Delhiへ派遣し学校そして送り出し機関との提携をスタートさせコロナが蔓延する直前の2020年12月にはインド人材が入国することができた。インド人は地頭もよく理解力も高く即戦力として問題なく勤務し、意見もしっかり主張し2年目以降では新人の日本人職員に業務を教えている状況もあるくらいだ。現地では看護師として働いていた能力を十分に感じることができたが、学校の人材の募集、そして教育の内容について疑義があり、人材と学校とのトラブルもいくつかあった。

これらのことから私は新たな学校開発の必要性を考えていた時にこの機会を得ましたこと、インド各機関への手配そしてアテンドをいただいた全日本空輸（株）インド総代表片桐様には心からお礼申し上げます。



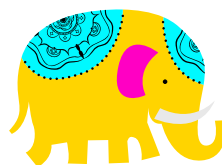
インドデリー空港を出ると、東南アジア独特の車のけたたましいクラクションと埃っぽい空気感、そして匂い、しかしインドデリーは2000万人が居住する大都市世界一と言われる光化学スモッグ、街全体が常に霧の中にあるようだ。そして街には至る所がゴミだらけ、と野良犬と野良牛！、ホテルやショッピングモールの入り口には必ず金属探知機、照明は蛍光灯は一つも無く全てLED、ダンスをしてお金を求める子どもたち、側道や公園にたくさんの寝ている貧困層、片や月収1万ドル150万円が1%1500万人もいる貧富格差も大きい。訪問では、在インド日本大使館鈴木全権大使からインドの現状や今後の可能性、JETRONewDelhi事務所、JICAインド事務所では日本企業との物流、交流データからインド各州の地域性など各説明を受け、その後送り出し機関の認定機関NSDC Internationalの訪問、こちらでは送り出し認定機関にも関わらず当機関も特定技能人材（介護、宿泊、農業）の教育送り出しも行っていった。



送り出し機関Arms Incorporation訪問、こちらは技能実習、特定技能両方に対応し介護、農業、外食の教育を行っていた。両方とも1ヵ月程度でN5レベル、6ヵ月でN4程度まで習得させていることはインド人材のコミュニケーションスキルの高さを実感できる。



インド人は多民族国家で多数の民族から成り立つため、自分の部族の言語と英語でコミュニケーションをとっているのが、アリア語とヒンディー語と英語3カ国語以上話すことが普通にできる。同じ英語圏への就業留学が多数を占め、オーストラリアには毎年20万人が留学するが日本には1600人しかいない。またベトナム実習生も半数以上は社長になりたいと思っていて、とても意欲向上心が高いが、インド人もまた意欲向上心が高く先を見た行動をするため目先の「出稼ぎ思考」ではなく「キャリア思考」で外国人がキャリア形成できる制度が確率しているドイツ、シンガポール、オーストラリア、アメリカ、台湾への就業が多くを占めている。世界企業のgoogleの社長にインド人のサンダー・ピチャイ氏が着任したことで話題になり、インド人は意欲的で、コミュニケーションスキルや自己肯定感も高く、グローバル組織の経営者トップとして管理職リーダーとして多くのインド人が活躍している。日本は安全な国、アニメ文化で行ってみたい国には上位には上がるが英語を話せる日本人がとても少ないことと、技能実習、特定技能も3年間、5年間の有期限でキャリアアップ制度は実質的にはないことから、日本で短期間経験してキャリア（管理職等）に就ける他国に行くという流れが一般化するようにも感じる。



両方の送り出し機関に言えることは、とてつもなく広いインドには多数の民族がいて肌の色が黒く彫が深いアリア系が多数を占めているが、日本人と同じモンゴロイド系が多い北東部アルナーチャル・プラデーシュ州、アッサム州、マニプル州、メーガーラヤ州、ミゾラム州、ナガランド州、トリプラ州、シッキム州の8州から人材募集をしている。日本人と同じモンゴロイド系統にある中国、韓国、ベトナム、ミャンマー、インドネシアは性格的にも身体的特徴もよくにているため職場でもなじみやすいし、互いに行動理解がしやすい。

東南アジアはどこも目覚ましい経済発展にあるが、インドは特にパワフルさを感じて帰国しました。今回は上記インドの2つの送り出し機関と締結し、より質の高い介護人材を枯渇することなく安定して輩出する体制を構築することで組合企業様の発展に寄与して参りたいと思います。

(リポーター：芦塚 泰三)